

平成28年度（平成27年度実施分）個別施策評価シート

① 総務委員会

評価する個別施策	自主防災組織の強化 ・自主防災組織の強化のため、防災リーダーや防災ボランティアの育成を推進します。 ・消防団等の関係機関との連携強化を図ります。 ・各種防災訓練や防災に関する講習会の開催など防災教育の充実を図るとともに、情報の積極的な提供により、市民の防災意識の向上に努めます。
----------	---

項目別評価 ※評価欄の該当項目に○印を付け、判断理由・評価コメント欄は必ず記入してください。

評価項目	評価基準			判断理由・評価コメント	
	点数	チェック	評価点		
個別施策の実現に向けて順調か	概ね順調	76~100		39	「順調に進んでいる点」 無し
	どちらかといえば順調	51~75			「遅れている点」 必要とされる防災リーダーの育成ができていない。 消防団との連携が十分でない。 防災訓練参加者の顔ぶれがほぼ同じであり、参加人数も減少している。
	どちらかといえば遅れている	26~50	○		「その他コメント」 無し
	遅れている	0~25			
構成する事務事業は、個別施策を実現するために有効か	個別施策実現のために必要な内容が不足していないか				不足している。 市民の防災意識が欠如している。
	無駄な事業・内容はないか (不要な事業、類似事業を含む)				無し
	その他コメント				無し
施策の今後の方向	注力すべき事業・内容はあるか。どのように改善するか (事業自体はあるが、改善をすべき内容を記載。委託も。)				無し
	追加すべき事業はないか (事業自体無い、あるいは、不足している内容を記載)				・防災リーダーの育成も必要であるが、その防災リーダーが自主防災組織の強化につながるよう、より地域で求められ戦力となる実践的なリーダーとなる施策が必要。 ・消防団等と自主防災組織との連携強化が具体的にみえるような方策を講じるべきである。 ・住民の自助・共助（互助）の意識の醸成を図る。 ・住民が自らの身を守り、お互いが助け合うことができる状態にするために、隣組単位での組織強化を図る。 ・今までの事業に加え、各地域で感震ブレーカー取付等の推進を通じて、更なる防災意識の向上を図る。 ・市内の先進的な取り組みをしている地域を防災のモデルとして、その内容を全地域に広げるべきである。 ・防災交通課だけでなく市民協働課を交えて体制の強化を図り、有効な事業を実施すること。
	廃止すべき事業・内容はあるか				無し
	その他コメント (不要だが廃止しない場合の理由、などを記入)				・一例として、家具転倒防止器具取付講習会の参加人数も大事だが、取付件数を増やすことが重要。
その他コメント	無し				

平成28年度（平成27年度実施分）個別施策評価シート

② 総務委員会

評価する個別施策	防犯意識の向上 ・住宅の侵入盗や高齢者に対する振り込め詐欺などの犯罪防止のため、防犯意識の向上を図ります。
----------	---

項目別評価 ※評価欄の該当項目に○印を付け、判断理由・評価コメント欄は必ず記入してください。

評価項目	評価基準			判断理由・評価コメント	
	点数	チェック	評価点		
個別施策の実現に向けて順調か	概ね順調	76～100		49	「順調に進んでいる点」 無し
	どちらかといえば順調	51～75			「遅れている点」 多くの事業が行われてはいるが、住宅の侵入盗や高齢者に対する振り込め詐欺が減少しておらず、まだまだ防犯意識の醸成に至っていない。
	どちらかといえば遅れている	26～50	○		「その他コメント」 無し
	遅れている	0～25			
構成する事務事業は、個別施策を実現するために有効か	個別施策実現のために必要な内容が不足していないか				不足している。 防災交通課に防犯対策のノウハウが足りない。
	無駄な事業・内容はないか（不要な事業、類似事業を含む）				無し
	その他コメント				無し
施策の今後の方向	注力すべき事業・内容はあるか。どのように改善するか（事業自体はあるが、改善をすべき内容を記載。委託も。）				・犯罪の被害状況を把握し、具体的な対策を取り入れた啓発活動が必要である。
	追加すべき事業はないか（事業自体無い、あるいは、不足している内容を記載）				・犯罪手口を研究するセミナーなどを開催し、広く市民に伝える。 ・市役所でできることには限界があると思うが、昨今では犯罪の手口が巧妙になってきており、犯罪防止のための更なる啓発活動が必要である。 ・隣組単位の連携を強化し、防犯体制を高める。 ・防災交通課だけでなく市民協働課等を交えて体制の強化を図り、成果がみえる事業を実施すること。
	廃止すべき事業・内容はあるか				無し
	その他コメント（不要だが廃止しない場合の理由、などを記入）				・警察OBを採用するなどして防犯活動を推進する。 ・消費者相談センター等と連携し、特殊詐欺を防止する。
その他コメント					無し

平成28年度（平成27年度実施分）個別施策評価シート

③ 総務委員会

評価する個別施策	安全な歩行空間の確保 ・歩道段差の解消、視覚障がい者誘導ブロックの設置、歩車道分離など、高齢者や障がい者、ベビーカーが安心して通行できる道路を整備します。 ・駅周辺の道路に放置してある自転車を撤去し、歩行者等の通行スペースを確保します。
----------	---

項目別評価 ※評価欄の該当項目に○印を付け、判断理由・評価コメント欄は必ず記入してください。

評価項目	評価基準			判断理由・評価コメント
	点数	チェック	評価点	
個別施策の実現に向けて順調か	概ね順調	76～100		25 「順調に進んでいる点」 無し 「遅れている点」 安全な歩行空間の確保を実現するための事業が足りない。 「その他コメント」 防災交通課では、放置自転車・自動車等対策事業のみである。
	どちらかといえば順調	51～75		
	どちらかといえば遅れている	26～50		
	遅れている	0～25	○	
構成する事務事業は、個別施策を実現するために有効か	個別施策実現のために必要な内容が不足していないか			不足している。 計画の立案もなく、具体的な施策もない。
	無駄な事業・内容はないか (不要な事業、類似事業を含む)			無し
	その他コメント			無し
施策の今後の方向	注力すべき事業・内容はあるか。どのように改善するか (事業自体はあるが、改善をすべき内容を記載。委託も。)			・歩道の邪魔をしている半田市設置の交通標識（立て看板等）の点検・整理をし、安全な歩行空間の確保をすることが必要である。
	追加すべき事業はないか (事業自体無い、あるいは、不足している内容を記載)			・自転車マナーの改善対策。 ・歩行者の危険箇所の把握と対策。 ・高齢者や障がい者、ベビーカーが安心して通行できる道路を整備しますと謳っているように、個別施策本来の目的を達成できる事業を追加する。 ・標識の半田市役所全体的な統一とマーケティング戦略。 ・歩行空間と自転車道との整理する具体策が必要である。 ・防災交通課が主体となり、市内の歩道や道路標識・交通標識を点検し、歩行空間の現状を把握すること。 ・「安全な歩行空間の確保」をするための計画を策定し、対策すること。 ・市役所でできることには限界があると思うが、効果のある事業を実施すること。
	廃止すべき事業・内容はあるか			無し
	その他コメント (不要だが廃止しない場合の理由、などを記入)			無し
その他コメント	無し			